

農泊

大月型農泊モデル（大月桃太郎ノウハク）の開発事業

活動の経緯

地域資源を活用した体験イベントを各々で実施しており、組織化することでより活動を拡大することができる。また、大月駅は、富士山登山の乗換駅で大月を素通りする観光客やインバウンドが多く、対策を以前から模索していた。

活動の概要

新規ビジネスモデルとして、ヘルスツーリズム、日本酒づくり、アウトドア体験型農泊の構築と検証が主な取組。



釣りやキャンプを複合化ビジネスモデル



ベトナム旅行会社を招聘したテストツアー

活動の成果、主な実績等

【農泊】

1. 活動内容

都市住民による新商品開発の評価のほか、ガイド養成を実施しビジネス化に向けた取組を実施。インバウンドではベトナムから旅行会社を招聘。また、大月市や大月短期大学と連携し2年間の事業を発表及び評価を実施。

2. 成果（効果）

新規ビジネスモデルとして、ヘルスツーリズム、日本酒づくり及びアウトドア体験を構築し市民に発表できた。また、農泊ガイド養成を地域住民対象に実施。

【学生・若者の活躍】

1. 活動内容

大月短期大学の学生を対象に毎月の協議会進捗会議や各種イベントに積極的に参加し、地域活性化活動の補助を実施。

2. 成果（効果）

学生目線による商品価値を新たに発見することができた。多様な方向性を確認でき、今後のビジネスへ応用の可能性。